

自然の形を生かしたあかり

白石和紙あかりワークショップ

5月12日、壽丸屋敷で「白石和紙あかり製作ワークショップ」が開催されました。この企画は、白石和紙づくりの技術を継承し、生産を担っているまちづくり団体「蔵富人」が主催したものです。この日は北海道や東京都、仙台市など市内外から12人の参加者が集まり、木の枝やツルなどの自然の材料で骨組みを作り、白石和紙を貼り付けながら思い思いのあかりを作っていました。参加者は「作品は和室に置いて、優しい明かりを楽しみたいです」と話してくれました。

ワークショップは第2回を6月16日に、第3回を7月7日に開催し、各回で製作した作品は、8月に開催される展示会で披露されます。

また、壽丸屋敷では蔵富人主催の「白石和紙展示会」を開催しています。白石和紙の製造工程や作品など、多くの展示物を常設しています。入場無料ですので、ぜひお越しください。



1・2_ワークショップで製作に打ち込む参加者たち。球状や筒状など、さまざまな形が作られています 3_「白石和紙展示会」の展示物。片倉小十郎の兜をイメージしました

多彩な手作り雑貨が勢ぞろい

第15回手作りの市

4月20日と21日、壽丸屋敷で「第15回手作りの市」が開催されました。市内を中心に活動している手作り作家など8団体が出店。洋服やバッグ、アクセサリ、布小物など多様な作品が展示販売されました。ずんだの豆をこけしの顔に見立てたストラップなど、アイデアと手作りならではのぬくもりある作品を楽しむ人で賑わいました。訪れた方は「どれも手の込んだ作品ばかりで見るだけで楽しいです」と話してくれました。



▲作品を手に取り談笑する買い物客

迫力の演舞で笑顔届ける

YOSAKOI in 白石城

4月21日、「YOSAKOI in 白石城」が開催されました。天候に恵まれたこの日は、県内外から18チーム250人が白石城に集結。オリジナルの衣装に身を包んだ各チームは、日ごろの練習の成果を発揮し、はつらつとした笑顔と躍動感あふれる演舞を披露しました。鳴り響く鳴子の音に多くの人が足を止め、勇壮にはためく色とりどりの旗も演舞に華を添えました。最後は参加者全員で踊る「総踊り」で締めくくり、会場全体が大いに盛り上がりました。



▲鳴子を手に力強い演舞を披露する参加者

交通死亡事故ゼロ500日達成

春の交通安全県民総ぐるみ運動

4月28日で交通死亡事故ゼロ500日を達成した本市に、5月7日、宮城県知事と県警察本部長からの褒状が伝達されました。この日は、佐藤亮県総合交通対策課副参事と佐藤宏樹県警察本部長が代理出席し、褒状を手渡された山田市長は「死亡事故ゼロを1000日、2000日と伸ばしていきたいです」と話していました。

また、5月10日には、11日から20日まで実施された春の交通安全県民総ぐるみ運動の出動式が白石城本丸広場で行われました。当日は白石警察署員や交通安全協会員など関係者約130人が参加。白石警察署の渡辺勇治署長が「県内の交通事故による死者数が前年より増加しています。悲惨な交通事故をなくすため、市民の皆さんのご協力をお願いします」とあいさつ。最後に「白石警察署甲冑隊」と参加者が関の声を上げ、署員らが乗り込んだ車両8台がパトロールへ出動しました。



1_死亡事故ゼロ500日達成の褒状伝達式 2_「エイエイオー」と関の声を上げる甲冑武者 3_出動するパトカー

プロの熱戦に大興奮！

ベガルタ仙台の試合を市民約400人が観戦

5月12日、サッカースポーツ少年団員や市民約400人が、ベガルタ仙台ホームゲームに招待されました。これは、株式会社ベガルタ仙台および市内に太陽光発電所を開発・建設したX-Elio Japan株式会社による地域貢献活動の一環。試合前には団員がエスコートキッズを務め、選手と手をつなぎながらピッチに入りました。試合は、後半アディショナルタイムにベガルタ仙台の逆転ゴールが生まれるなど大興奮！ 思い出に残る1日となりました。



▲試合前のベガルタ仙台の選手と一緒に記念撮影